

私は「ソーシャルビジネスしかやらない会社」、(株)ボーダレス・ジャパンの共同創業者です。(株)ボーダレス・ジャパンは、貧困や差別・偏見、環境破壊などの社会問題を、ビジネスを通じて解決する社会起業家たちのためのプラットフォームカンパニーです。

そんな私は、2019年に丸井グループのサステナビリティアドバイザーに就任しました。青井さんとは、これまで私のバックグラウンドを前提に、さまざまな議論を重ねてきました。社会の変化やソーシャルビジネスの観点から、今、丸井グループが何をすべきか、という問題提起をすることが私の役割だと思っています。

議論の一つに「インパクト(影響)の設定」がありました。ボーダレスグループ各社では、社会問題がどれほど解決されているかを示す「ソーシャルインパクト」を最重要経営指標として設定しています。これを、社会問題解決を通じて理想の社会を実現するという事業目的を表すものとして、すべての仲間が大切に、日々追求しています。丸井グループにもめざす社会の実現に向けて、独自のインパクトを設定することをおすすめしました。

そして、今般、中期経営計画において丸井グループは「3つのインパクト」を設定しました。丸井グループの場合は、「インクルージョン」というフィロソフィーがありますから、社会問題を含めて、グループ全体の事業目的を表す指標を設ける必要があります。今回、最も評価したいのは、「自分たちが実現したい未来」は何なのかということに真正面から向き合っ出した結果が、今回の「3つのインパクト」になっている点です。インパクトは、自分たちが描く理想像に直結していることが重要です。

THREE IMPACTS — ONE COMMITMENT

自分たちが実現したいものは何なのか
「3つのインパクト」の実現に向けて

BORDERLESS

インパクトを実現するためには、共に働く仲間の肌感覚が必要です。肌感覚とは、自分事としてとらえられると言い換えてもいいでしょう。日々、現場で活躍する社員の皆さんの「仕事一つひとつ」と「インパクト」がつながる時、売上や利益といった数字では決して語るできない、実現したい未来を自分たちの手で作っているという実感を得られます。今後、丸井グループは、プラットフォームとして、さまざまな人がチャレンジできる場をつくり、いろいろな形で社会にインパクトをもたらそうとしています。そのためにも、理想の未来をつくりたいというマインドと熱量を持つ社員が、肌感覚を持って自ら「こうしたい、ああしたい」とチャレンジできることが大切です。これから数年間、マネジメントは「待つ」ことを恐れてはいけません。一人ひとりがたくさんの失敗に直面し、それを乗り越えようと試行錯誤をくり返す。仲間が互いに助け合い、一つずつ成功事例を生み出していく。その積み重ねこそが、丸井グループをさらなる自立自走集団に変え、理想の未来を実現するエコシステムへと進化させていくと信じています。

鈴木 雅剛 | Masayoshi Suzuki

株式会社ボーダレス・ジャパン 代表取締役副社長
株式会社丸井グループ サステナビリティアドバイザー

1979年、山口県生まれ。大学院卒業後、株式会社ミスミに入社、同期入社の上野一成氏と共に、2007年に、貧困、差別・偏見、環境問題等の社会問題を解決する「ソーシャルビジネスしかやらない会社」として、株式会社ボーダレス・ジャパンを共同創業。2021年10月時点で15カ国43社を展開。43人の社会起業家が、互いの資金・ノウハウを融通し合う独自の仕組み「恩送り」を通じて、次々とソーシャルビジネスを生み出す「社会起業家のプラットフォーム」を展開している。2019年から丸井グループのサステナビリティアドバイザーを務める。🌐 www.borderless-japan.com/

